

# 春野町における民間口承文化財（昔話）の伝承による地域文化の保存継承

静岡文化芸術大学 文化政策学部 二本松康宏ゼミ

指導教員：教授 二本松康宏

参加学生：3年生 奥村宗明 小田ありさ 澤田駿佑

4年生 青木ひめの 青島萌果 小川日南 川嶋結麻 米川沙弥 松井佐織

※ 4年生はサポート参加

## 1 要約

浜松市天竜区春野町において民間口承文化財（昔話）を採録し、その記録と保存、公開と継承を目指す。

地域に伝わる伝説や家庭に受け継がれた昔話は、その土地に生きた人々の心と記憶の遺産である。しかし、近年の加速的な高齢化と過疎化によってそうした民話の伝承は急速に消え去ろうとしている。その記録と保存、公開と継承は地域アイデンティティの再生と文化財保護の観点において緊急の課題である。

二本松ゼミ（伝承文学）では、平成26年度、27年度、28年度にわたって同区水窪町において民間口承文化財の採録調査を実施してきた。29年度は同区龍山町において同じく民間口承文化財の採録調査を実施。それらの成果は年度ごとに書籍として刊行され、日本昔話学会等においても高い評価を受けている。

これまでの実績を踏まえ、平成30年度からは春野町において同様の採録調査を実施することになった。その4年目にあたる令和3年度は春野町のうち杉・川上地区を採録の対象地域とする。新型コロナウイルスの感染予防の観点から従来の集団採録を設けず、個別訪問を中心とした採録に移行。採録のおもな対象を「山の怪異」とすることで聴き取りの対象者を「山の伝説や言い伝えに詳しい人」に絞り、それによって採録日数も従来の12日から8日に減らした。

採録した昔話は学術的な位置付けや記録価値を検証し、「民間口承文化財」としての保存（アーカイブ）を目的として「方言のまま」「語り口のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説などを書き添え、これまでと同じように書籍としての刊行・公開を目指す。

浜松市天竜区春野町

世帯数 1,772 世帯

人口 3,899 人

65歳以上 2,103 人（高齢化率 53.9%）

14歳以下 197 人（5.1%）

（令和3年10月1日現在）



浜松市役所 ～（41km）～ 春野協働センター ～（14km）～ 杉 ～（6km）～ 川上

杉・川上地区の世帯数と人口（令和3年10月1日現在）

地区	自治会	世帯数		人口	65歳以上		14歳以下	
		自治会登録	住民基本台帳		高齢化率			
杉	杉第一	20	91	218	127	58.2%	12	5.5%
	杉第二	31						
	杉第三	33						
川上	川上	53	56	101	77	76.2%	0	0.0%

## 2 研究の目的

### (1) 昔話の調査と研究の現状

日本各地の山間地域では極端な高齢化と過疎化が進み、かつてのように昔話を語り伝える人々は急激に減少している。それは地域におけるコミュニティとアイデンティティの危機でもある。1970年代から1990年代前半にかけては昔話研究懇話会（日本昔話学会）や日本口承文芸学会を拠点として、多くの大学のゼミや研究会によって組織的かつ本格的な昔話の採録調査が展開され、調査報告書の公刊が相次いだ。しかし2000年頃からは、そうした調査がきわめて困難になったといわれる。

背景1. 「お年寄り」の減少 → 高齢者は増えたが、戦後の高度経済成長を支えて働いてきた人たちは昔ながらの昔話を語るような「おじいちゃん」「おばあちゃん」ではなくなった。

背景2. 少子化の影響 → 山間地域では極端な少子化が進み、孫と同居する高齢者が減ったため、高齢者は自分が幼少期に聴いた昔話を孫に語る機会がなくなった。現役の語り手ではなくなった。

### (2) 春野町におけるこれまでの取り組み

昭和60年（1985）には旧春野町教育委員会により『ふるさと春野の伝説』が刊行されている。しかし、同書に掲載された27話はすべて再創作（再話）と標準語化が施されている。口承文化財の記録としての価値・評価は限定的と言わざるを得ない。

## 3 研究の内容

### (1) 調査の方法

- ① 令和3年7月から12月にかけて浜松市天竜区春野町杉・川上地区において民間口承文化財（昔話）の採録調査を実施した。
- ② 新型コロナウイルスの感染防止策
  - (ア) 当該地区の高齢者にワクチン接種がある程度まで行き渡るのを待ち、調査の開始を7月に延期
  - (イ) 集団的な採録調査は実施せず、個別訪問を中心とする
  - (ウ) 採録のおもな対象を「山の怪異」とすることで聴き取りの対象を「山の伝説や言い伝えに詳しい人」に絞り、採録日数を従来の12日から8日に減らす
  - (エ) 訪問先の玄関前で、高濃度エタノールによる手指の消毒とヨウ素系うがい薬による口腔咽頭部の消毒を徹底
- ③ 調査は二本松康宏が監修し、ゼミに所属する3年生3名が採録にあたった。
- ④ 前年度に『北遠の災害伝承』の調査・編著にあたった4年生6名がサポートメンバーとして参加。
- ⑤ 浜松市春野協働センターと地域の各自治会にご協力をいただいた。
- ⑥ 採録した話は「方言のまま」「語りのまま」に翻字・記録する。
- ⑦ 採録調査にあたった学生が伝承地域の解説を執筆する。
- ⑧ 民間口承文化財（昔話）を「地域と家庭に受け継がれた心と記憶の遺産」と位置付け、その記録・公開、保存・継承を目指して、書籍として刊行する。

### (2) 調査の記録

1	7月4日（日）	石打松下、五和、越木平	12	11月13日（土）	補足調査
2	7月10日（土）	川上	13	11月20日（土）	補足調査
3	7月11日（日）	杉第三	14	11月27日（土）	補足調査
4	7月17日（土）	杉第二	15	12月4日（土）	補足調査、春野図書館
5	7月18日（日）	杉第一	16	12月5日（日）	春野図書館
6	8月7日（土）	川上、田河内	17	12月9日（木）	島田市立島田図書館
7	8月8日（日）	杉第三、杉第二	18	12月11日（土）	補足調査
8	8月9日（月）	杉第二、杉第一、石打松下	19	12月12日（日）	補足調査
9	10月23日（土）	春野図書館	20	12月18日（土）	補足調査
10	10月30日（土）	補足調査	21	12月25日（土）	補足調査
11	11月6日（土）	補足調査	22	12月26日（日）	補足調査

### (3) 採録調査の様子



### (4) 採録の成果

話者カードへの登録	52名
採録話数	
昔話	3話
伝説	49話
世間話	54話
言い伝え	39話
計	145話



#### 【参考】民間口承文芸（民話）の分類

伝説	時代や場所を特定し、その土地では歴史的事実のように信じられている。伝説をよく知る人は、その地域で「古老」「ものしり」として知られているため、採録調査は比較的容易。
昔話	時代と場所を特定しない（むかしむかし、あるところに）。家庭内で「子どものおとぎ話」として語り継がれてきたため、他人の前で話すのは「恥ずかしいこと」とされがちで表に出にくい。
世間話	自分自身や近親者、知人などを取り巻く地域やコミュニティのなかで、「体験談」や「噂」として語り伝えられる。近年の「都市伝説」や「学校の怪談」もこの範囲に含まれる。
言い伝え	習慣や習俗、謂れなど。ストーリーを持たない。

### (5) 「語りのまま」「方言のまま」— 民間口承文化財

近年では「語り部」として小学校や図書館などで昔話を語り聞かせる活動が広まっている。しかし、そうした活動では子どもにもわかりやすく標準語化され、あるいは再創作（再話）された話が大半を占めている。昔話や伝説は地域と家庭に伝えられた文化遺産である。標準語化や再創作は、いわば文化財の改竄に等しい。未来に伝えなければならないのは「語りのまま」「方言のまま」の地域の文化遺産である。

### (6) 書籍としての刊行

採録した昔話や伝説の記録・公開、保存・継承を目指して書籍化



【参考】図書館への配架状況		静岡県内の公立図書館	国内の大学図書館
水窪のむかしばなし	2014年度	19館	9館
みさくぼの民話	2015年度	33館	13館
みさくぼの伝説と昔話	2016年度	32館	12館
たつやまの民話	2017年度	26館	11館
春野のむかしばなし	2018年度	33館	8館
春野の昔話と伝説	2019年度	30館	10館
北遠の災害伝承	2020年度	15館	8館

#### 新刊 春野の山のふしぎな話（仮）

編著：小田ありさ・奥村宗明・澤田駿佑 監修：二本松康宏

発行元：三弥井書店 発行予定日：2022年3月 A5版並製140頁 定価：1,000円（消費税別）

## 4 研究の成果

### (1) 当初の計画

春野町杉・川上地区において採録調査を実施。採録した昔話は「方言のまま」「語り口調のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説を書き添え、書籍として刊行する。

### (2) 実際の内容

A（予定どおり）

### (3) 実績・成果と課題

令和3年度の成果としてこれまでと同様に書籍を刊行する。

### (4) 今後の改善点や対策

次年度は春野町豊岡地区および宮川地区での採録調査を予定している。新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、時事にあわせた調査体制が課題になるだろう。

## 5 課題提出者・地域への提言

杉・川上地区における民間口承文化財（昔話や伝説）は語り手たちの高齢化と急速な過疎化によって、いまや風前の灯火というべき状況にある。本来、昔話は世代を超えた地域文化の継承のためのコミュニケーション・ツールである。地域に伝承された伝説だけでなく、家庭に語り継がれた昔話もあわせて、地域文化として継承して欲しい。たとえば、我々が刊行する書籍を春野町内の気田小学校や大居小学校、春野中学校での地域学習に取り入れ、地域文化を学ぶための教材として活用していただけるとありがたい。

## 6 課題提出者・地域からの評価

昨年度に引き続き、新型コロナの影響下での調査となり、学生の皆さんは調査実施にあたり、感染対策について大変苦勞したと思います。そのような中であっても、厳しい夏の暑さ、冬の寒さの中、調査地域に何度も足を運び、根気強く高齢者の方々から聞き取りを行う姿勢に大変感銘しました。次のゼミ生にも「語りのまま」「方言のまま」にこだわった昔話の採録調査を引き継いでいただく事を期待するとともに、今回の調査がどのようにまとめられ刊行されるか楽しみにしております。

浜松市春野協働センター 副所長 尾畑佳志様

今回の採録調査において、言い伝えを文字として残すだけでなく「言い伝えの根底にある山への信愛、畏敬を後世に伝えたい」との二本松教授の想いに感銘いたしました。現場では、「特に話すことはないなあ。」とつぶやきながら、ゼミ生との語らいの中で、記憶の糸が解きほぐされたり、自己の体験がよみがえったり、雄弁になる高齢者のみなさんの様子がとても印象的でした。春野町に何度も足を運び語り手と地域文化を共有し、記録を継承していただけることに心より感謝申し上げます。

浜松市春野協働センター 生涯学習グループ長 鈴木尚世様